

日本学術会議 物理学委員会 天文学・宇宙物理学/IAU分科会 報告

分科会開催：令和1年7月29日

報告者：奥村幸子
(日本学術会議連携会員)

日本天文学会2019年秋季年会

日本学術会議

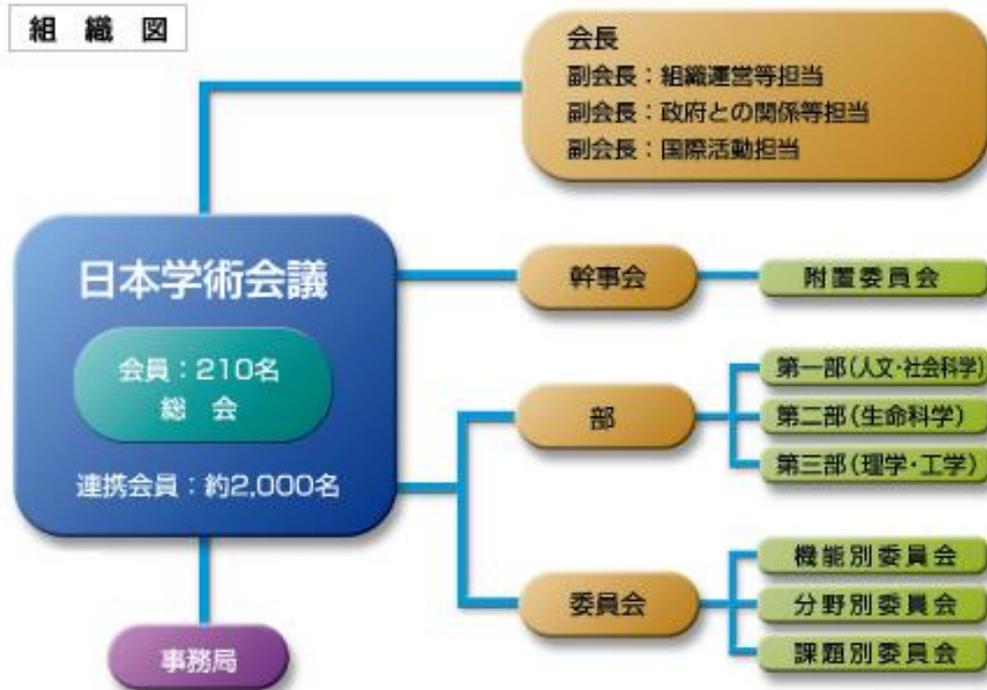
日本学術会議とは

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという確信の下、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和24年（1949年）1月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立されました。職務は、以下の2つです。

- 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
- 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。



組織図



氏 名	所 属 ・ 職 名	備 考
梶田 隆章	東京大学宇宙線研究所教授	第三部会員
田近 英一	東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻教授	第三部会員
藤井 良一	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構長	第三部会員
山崎 典子	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究研究所教授	第三部会員
相川 祐理	東京大学大学院理学系研究科天文学専攻教授	連携会員
浅井 歩	京都大学大学院理学研究科附属天文台准教授	連携会員
生田ちさと	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所学際科学研究系准教授	連携会員
岡村 定矩	東京大学エグゼクティブ・マネジメント・プログラムチェアマン補佐	連携会員
奥村 幸子	日本女子大学理学部数物科学科教授	連携会員
海部 宣男	国立天文台名誉教授	連携会員
佐々木 晶	大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻教授	連携会員
芝井 広	大阪大学理学研究科教授	連携会員
新永 浩子	鹿児島大学学術研究院理工学域理学系物理・宇宙専攻宇宙情報講座准教授	連携会員
杉山 直	名古屋大学大学院理学研究	連携会員

	科教授	
須藤 靖	東京大学大学院理学系研究科物理学専攻教授	連携会員
千葉 征司	東北大学大学院理学研究科天文学専攻教授	連携会員
常田 佐久	国立天文台台長	連携会員
永原 裕子	東京大学大学院理学系研究科教授	連携会員
林 正彦	国立天文台光赤外研究部教授	連携会員
深川 美里	名古屋大学大学院理学研究科准教授	連携会員
観山 正見	広島大学学長室特任教授	連携会員
村山 斉	東京大学国際高等研究所数物連携宇宙研究機構機構長・特任教授	連携会員
山田 亨	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究研究所教授	連携会員
渡部 潤一	大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台教授	連携会員

● 天文学・宇宙物理学

委員長：林 正彦、副委員長：山崎典子

● IAU

委員長：渡部潤一、副委員長：生田ちさと

幹事：山田 亨、深川美里

天文学宇宙物理学分科会報告

(令和元年7月29日開催分)

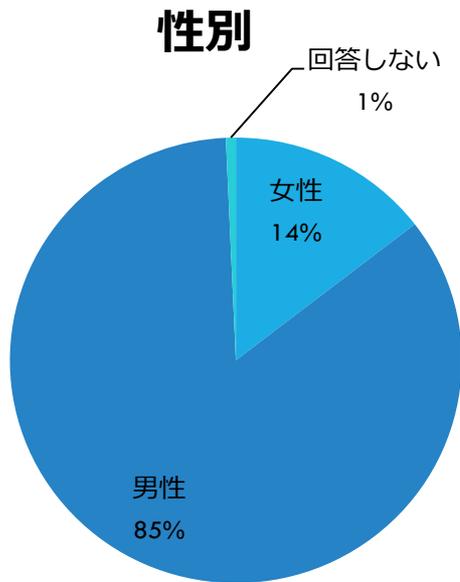
- マスタープラン2020の策定の状況
大型計画：分野の根幹となる、最先端を切り開く計画
「策定の方針」に沿って議論・審査
<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-h181206.pdf>
 - ✓ 平成31年1月17-18日のシンポジウムを経て、1月23日分科会で物理学分野の評価小委員会への推薦を議論・検討
 - ✓ 平成31年春に物理学分野の評価小分科会にて審査
大型研究計画を内定、重点大型計画の候補に選ばれた計画についてはヒアリングを実施予定
議事次第・要旨
<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/kenkyukeikaku/hyouka.html>
 - ✓ 2020年1月を目処に学術会議として決定・公表の予定
(それまでの審査は非公開)

天文学宇宙物理学分科会報告

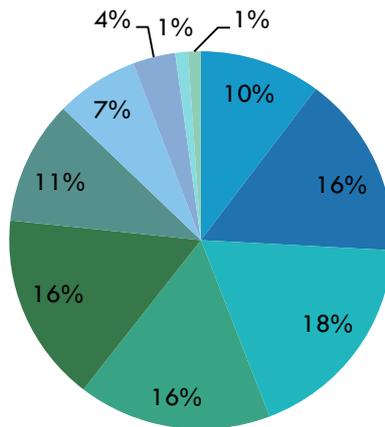
(令和元年7月29日開催分)

- 学術会議「軍事的安全保障研究に関する声明」のフォローアップ
 - ✓ 天文学会声明「天文学と安全保障との関わりについて」に至るコミュニティの意見分布を確認
 - ✓ 学術会議・科学者委員会でのフォローアップの議論や、各研究機関の状況を踏まえ、今後も継続的に議論していく予定
- 第25期委員の推薦について
 - ✓ 連携会員（任期6年）の改選に伴い、候補者となり得る方々のリストアップに、**前回同様、天文学会にもご協力いただければありがたい**
 - ✓ 地方大学の研究者や女性研究者など**多様性を重視**して選ばれる見込み
- 博士号取得者のキャリアパス調査（速報）

■キャリアパス調査： 回答者属性



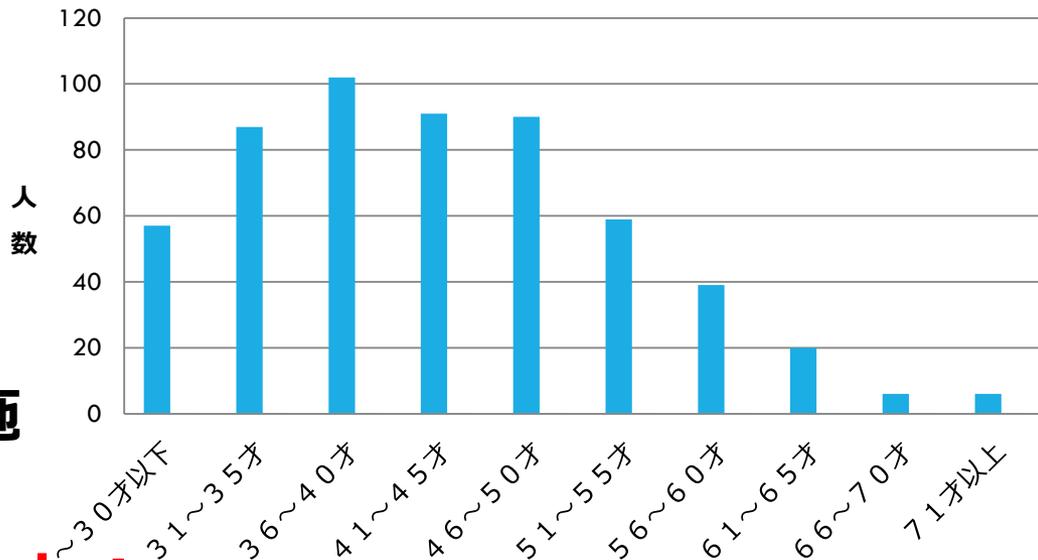
年代別回答数 (%)



- ～30才以下
- 31～35才
- 36～40才
- 41～45才
- 46～50才
- 51～55才
- 56～60才
- 61～65才
- 66～70才
- 71才以上

博士号取得者 **551**

年代別回答数



2019年4月23日～8月31日実施

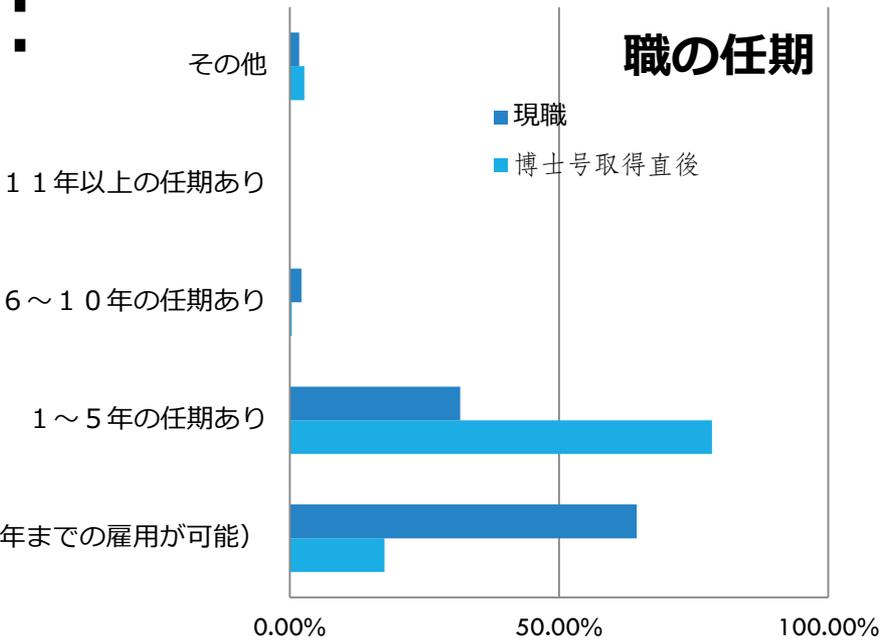
回答者数 **557**

ご協力ありがとうございました！

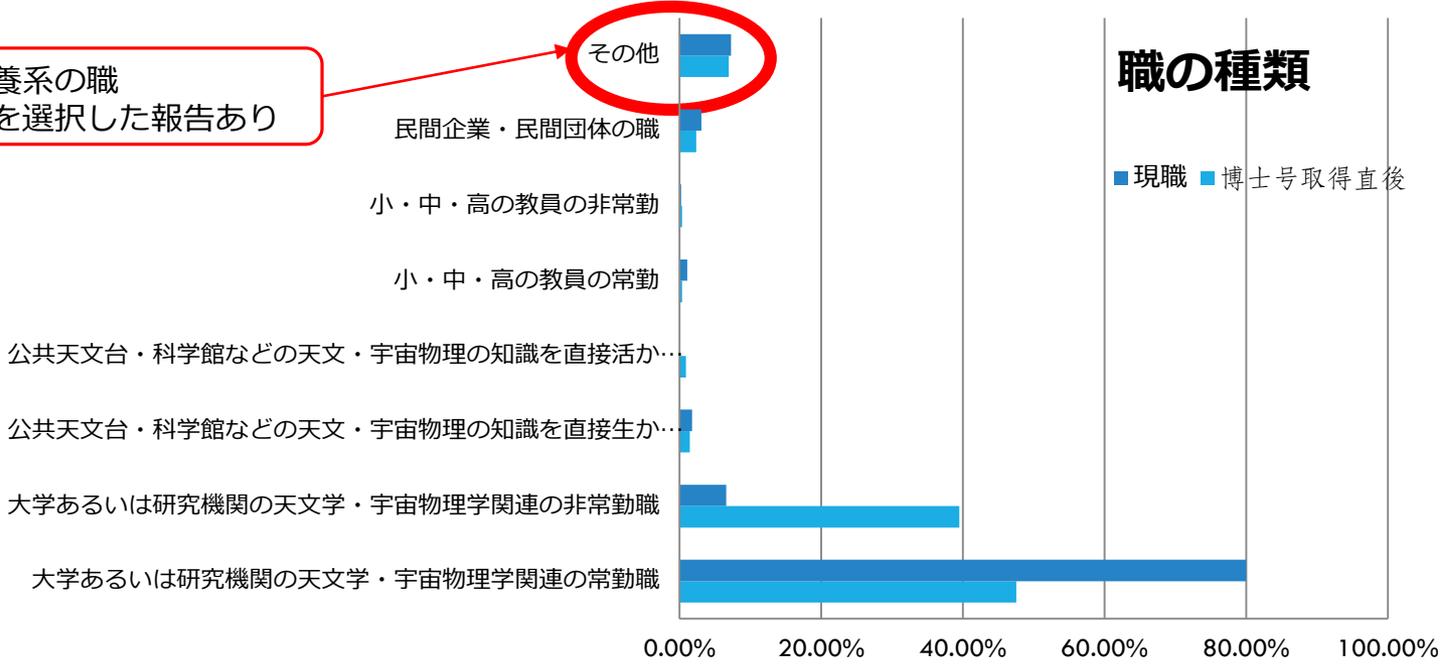
■キャリアパス調査： 任期、職種

● 博士号取得直後の職
● 現職*

* 「博士号直後の職 = 現職」の方は現職の数に含まれず。

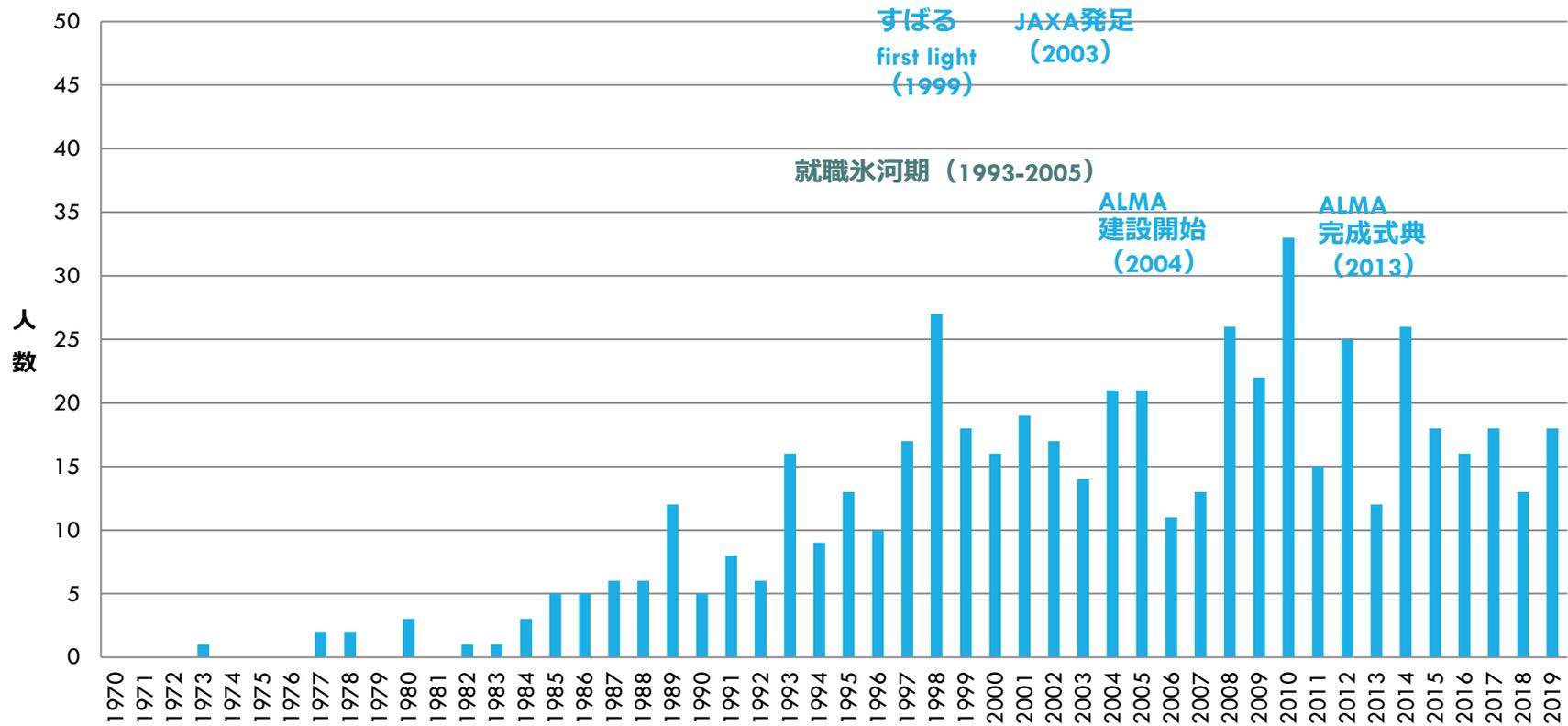


大学の教育系や教養系の職の方が「その他」を選択した報告あり



■キャリアパス調査：博士号取得年による 違いに着目

博士号取得年と回答者数



様々な観点で解析し、
公表に向け準備。

大学院重点化 (1991-2000)

PD一万人計画 (1996-2000)

大学教員の
任期付
(1997)

国立大学
運営費交付金
1%削減スタート (2006)

第二期科学技術基本法
(2001-2005)
「研究費でPD雇用」

● キャリアパス問題に関する取り組み

- ✓ **キャリアパスに関する実態調査の実施**（**現状理解と問題把握**）
 - 博士課程終了生の進路調査（2018.06~11）
 - アカデミックキャリアに主眼をおいた、**天文学研究者の実態調査**（2019.04~08）
- ✓ **アカデミックキャリアにおけるキャリアパス問題の検討**（今後）
 - クロス集計等、調査結果の解析や同様調査との比較
 - 調査結果（事実）を踏まえ、コミュニティでの議論を経て、**提言をまとめたい**

引き続きご協力をよろしくお願い致します！